



はじめに



早いものでこの取り組みも2年がたった。普段はひとりのダンサーとして活動しており、演出家や振付師としてはまだまだ経験の浅い私に、大きなチャレンジの機会をいただき、とても幸せな2年間であった。

私がこの場で大切にしていたことは「目の前の人と共に、何を創りたいか」である。

私は演出・振付付けという役割だが、これは「みんなでつくるダンス公演」である。地図で例えるなら、私は大枠を描いただけで、そこから小さい道や建物などを自由に描きながら地図を完成させるように、参加者それぞれが振り付けを考え、それをシェアし表現していった。

この公演に参加する人の身体は多様で、そこから生み出される踊りも多様である。障害の有無、年代の違い、普段の生活では出会わない人との創作は、まず他者との境界を探ることから始まる。「障害のある人もない人もいっしょに踊ろう」という名目から「障害／健全」という境目でのお話となりがちだがそうではなく、人対人、身体対身体が向き合うことから生まれる、かみ合わない凸凹（でこぼこ）としたようなものを顕在化させることである。

人の身体は影響し合う。誰かの動きに触発され、他者の身体が変化の様子をこの2年間で何度も目の当たりにした。そんな時、言葉にならず心がキュッとした。

ダンスは全てを映し出す。身体も、心も、人生も。

だからこそ、人を魅了する。この2年で出会った全てのダンスがいと楽しく、またここで新しい表現に出会えるのが楽しみである。

ダンサー・俳優 森田かずよ

プロフィール

「二分骨椎症・術者症」を持って生まれ、18歳より芝居を始める。表現の可能性を日々楽しく考えながら、養正の女優・ダンサーとして活動。「Performance For All People. CONVEY」主宰、ヨコハマブラトリエンターレ、国民文化祭、庭劇団ベニノ、アジア太平洋障害者芸術祭など国内外の多数の公演に出演し、TVなどメディア出演も多数。東京2020パラリンピック開会式出演。神戸大学人間発達環境学研究所修士学位取得。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクール バリアフリー部門1位、PERSOL Work-Style AWARD 2020 ダイバーシティ部門受賞。



みんなでつくる ダンスの始まり!

ワークショップレポート

2022年度は9〜12月の12回にわたって稽古を行いました。森田さんの元に来まったのは、一般公募による市民や市内にキャンパスがある追手門学院大学地域創造学部草山ゼミの学生たち。障害のある人もない人も、ダンス経験者も初めての人も、4歳から70代まで、年齢の違いも超え、一人ひとりの個性や得意なことをいしながらダンスをつくりました。

二人ひとり違う皆さんの身体が皆さんの正解が出すものが正解人と比べないでと森田さん



たくさんの応募がありました。

これから一緒に、稽古に取り組みます!!

- 誰でも楽しくたくさんの人と踊りたいいな (小学生)
- 要強てなかなか動けないです。頑張るのではよしくしたい (20代)
- 60歳の記念になることを残したいと思い参加しました (60代)
- 電動車いすで、経験もないので少し不安です (10代)
- みんなで作品づくりしたい (大学生)

※前アンケートより



各々が得意なことや好きなことを披露!

ダンスに入っていけない参加者を大学生が優しくフォロー



森田さんから「2人で3本足で立ってみて」という指示。立つ動作だけでなく皆さんのバリエーションが!

参加者の中には、2年連続で参加してくれた人も。昨年は緊張で固まっていたのに、今年はみんなにまぎって表情も柔らかに!

